倫理　研究課題　＜源流０２＞

教科書：p　　～p　　資料集：p　　～　　ノートp　　～

●ソクラテス

古代ギリシア３大哲人の一人。その言行は弟子プラトンの著作（対話編）により伝わる。

デルフォイの神託事件（アポロン神殿で神が「ソクラテスに勝る知者はいない」と宣告）

→ソクラテスは納得できない（←理由：「自分は真理について何も知らない」と自覚）

→自分以上の知者を探しだして神に反論しようと思い、評判の高い「知者」を訪ねた

→自分は無知を自覚しているのに、「知者」は知らないくせに知ったかぶりをしている！

→「無知の知」を経て、真の知を愛し求めることが正しい生き方だ！（←神託に納得）

＝自分の無知を自覚すれば自然と真の知を求めるようになる。それこそ真の知者の姿！

→青年たちに「無知の知」を自覚させようと活動を開始。（←アイデンティティ確立？）

納得させる方法＞　問答法（or 助産術）と、皮肉（エイロネイア＝知らないふり）

知らないふりをして質問を重ねることで青年が自然に自分の無知に気づくよう仕向ける

※比較：ソフィストの方法＞　一方的な説得と強要（押しつけ）

→市民の反感を買い、民衆裁判に訴えられ、自己弁護（→プラトン著『ソクラテスの弁明』）

人間の徳＝魂を良くすること（魂への配慮）

＝理性をよく働かせること＝真理を愛すること（哲学）

＝ただ生きるのではなく、よく生きること

「金や名誉ばかり求めていて、恥ずかしくないのか！」

徳を知る＝徳のある行動ができる（知徳合一・知行合一・福徳一致）

→しかし死刑判決　→クリトンが脱獄を勧めたが断固拒否！（→プラトン著『クリトン』）。

→毒杯をあおって刑死（霊魂の不滅を信じていた）（→プラトン著『パイドン』）

★「高収入だから医師になりたい」という青年に、ソクラテスなら何と言うだろうか？

★ソクラテスは、なぜ脱獄を拒否し、不正な判決に従ったのだろうか？

★「決まり（ルール）は守らなければならない」という考え方は正しいか？